



～私の拘り～



酪農経営：佐渡郡新穂村舟下 本間 敏明氏

早いもので酪農＋水稻の循環型複合経営に取り組んで30余年となりました。25年前父が56歳の若さで胃癌で亡くなってから私も年1回の人間ドッグを受診しています。体力測定の結果年齢よりも10歳も若いとの数値が出ると嬉しさが込み上げ、自分はまだ若いのだ体力も大丈夫と今までは無理して来ました。しかし50歳代も半ば近くなり、腰痛や疲労感が残って来ると、やはり自分も年相応に一段ギアチェンジして体力の保持に努めるのが賢明だと悟っているところです。牛肉の自由化、乳価の低迷、BSEの発生、そして16年からの家畜排泄物法の施行とさらに厳しさを増す酪農情勢の中で、佐渡の酪農家も2年間で5戸が廃業し20戸となり高齢化が進むばかりです。以前待望のヘルパー組合が設立され2年余り酪農家の休日を楽しんで来ましたが、その後ヘルパーの後任が決まらず現在に至っており後継者の少ない理由の一つになっています。私は離島のハンディを克服するには島内自給しかないとして21年前4人の仲間と粗飼料生産組合を設立し、草作りに励んで来ました。当初は自己所有の畑3.2haと他組合の8haの転作田で牧草を栽培していましたが、減反制度の改変や地権者の都合等で次第に面積も減少していた折、相川町に12haの草地を借用する事ができました。県単事業1,300万円で大型トラクター、ロールペラー、ラッピングマシン等の機械を装備し良質サイレージを確保しています。

又3年前からは集落でホールクropp用稲の団地を作り、昨年は残暑厳しい時期で有りましたが仲間で9ha収穫しました。すべて購入飼料で多頭化している人達には「拘りが強過ぎる」と映るかも知れませんが私は「牛づくりは草作りから」の信念を生涯貫徹したいと思っています。デフレ不況が続く長いトンネルから抜け出せない日本経済の中で牛乳の消費が減少していたのが、昨年の夏以降は消費増加に転じ、県内の生乳生産量が追いつかなく奨励金をつけての増産対策強化は酪農家にとって大変喜ばしい事です。新鮮で美味しく安全な牛乳を生産して、牛肉の偽装や牛乳の表示違反等で失った消費者との信頼を早く回復させたいものです。

～14年の養豚経営を振り返ってみて～



養豚経営：

北魚沼郡広神村大字池平 桜井富佐子氏

昨年の養豚経営は、牛飼いの方々の犠牲の上に成り立っていたと言っても過言ではない。BSEの発生による食肉の代替需要が豚価格に反映したためである。あまりの高価格で妄想にかられる様な情勢でした。

酒盛りして養豚から去って行った人達の事が、理解できるような世界でした。ただ、我が家の豚価格は大波小波の出荷状況でそうでもなく、こうゆう時は、あまり元気がでない。「豚飼いなにかやって、どこが儲かる。」と言われる様な厳しい情勢の方が頑張れる。元気も出て、やる気も起こる。家族も一致団結できる。かと言ってあまりにも低価格でも困るのだが。人間なんて、欲を出せばきりが無いと思う。私個人は、快食、快眠、快便が出来るよう日々真面目にやっけて行こうと思っている。「一部の悪さをする人間のために、真面目な者が損をするような世の中であってはならない。」とは思いますが年々世の中はその傾向が強くなっているような気がする。

農業者自身、誇りと哲学を持って農産物を作り、守るべき事はきちっと守る様にしたい。私自身、養豚業に就いて良かったと思っている。子供の世話もできるし、現代社会じゃ貴重な農作業の手伝いもさせられる。子供は自然児として育てられるし、子育て真っ只中の今、特にそう思う。この前子豚を小学校に連れて行くと、子供達が大勢寄ってきた。子供達の表情はおもしろい。校区内では有名かあちゃんである。いつまでも子供の笑顔が見られるよう、自分もしっかりしなくてはと思う。母豚50頭の一貫経営ぐらいの経営規模は女性にピッタリじゃないかと思う。就職難の時代に、こんな職業選択のコースがあったら面白いなと思う。皆さん今年も前向きに一生懸命、頑張りましょう。